

2019年度(令和元年度)事業報告書

(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

一般財団法人 山縣記念財団

I 2019年度決算について

(正味財産増減計算書) (以下千円未満は切捨)

- a) 2019年度の経常収益は、基本財産運用益が6,259千円(前年度4,846千円)と前年度に比し1,413千円増加し、受取会費などと合わせ合計15,442千円(前年度14,241千円)と1,201千円の増加となった。
- b) 一方、経常費用は37,059千円(前年度39,238千円)と前年度比2,179千円減少し、
- c) 評価損益等調整前当期経常増減額は△21,616千円(前年度△24,996千円)となった。
- d) また、基本財産等の評価損益等が△37,906千円(前年度△1,871千円)発生したため、
- e) 当期末正味財産は、432,404千円(前年度491,926千円)と前年度比59,522千円の減少となった。

(公益目的支出計画)

- f) なお、公益目的支出計画は認可を受けた年間支出金額29,902千円に対し実績は28,701千円と1,201千円の未達となったが、2012年度計画開始以降の実績累計額は241,592千円となり、目標累計額239,216千円(=29,902千円×8年)を上回った。

II 実施事項

1. 継続事業1: 普及・啓蒙事業

(1) 学術研究誌『海事交通研究』(年報)第68集発行

合計10件の論文等(内、査読論文4件、招待論文1件、論文以外5件)を掲載し2019年12月19日発行、海運・物流関係者など約400件に配布した。

(2) 財団設立80周年記念出版事業起ち上げ

2020年6月3日が財団設立80周年記念日にあたることから、2019年5月28日の理事会にて、財団設立80周年記念出版として、日本の海運に大きな足跡を残した偉人20数名の評伝集『日本の海のレジェンドたち』を発行することを提案し、承認を得た。9月11日以降順次、執筆候補者に執筆を打診、2020年1月末までの提出を依頼。11月19日の理事会にて「80周年記念出版編集委員会」の設置と編集委員6名の選出について承認を得、11月29日以降5回の委員会(うち1回はメール)にて、全編の表記の統一方法や個々の評伝の提出原稿上の修正点等について協議した。引続き、2020年度中の発行を目指し、作業中である。

2. 継続事業2: 表彰事業(2019年山縣勝見賞)

2019年7月19日 海運クラブにて受賞者、関係者を招いて贈呈式を開催した。

受賞著作・論文・受賞者は以下の通り。

- ・著作賞: 該当者なし
- ・論文賞: 丹羽 康之著「海上無線通信を活用した船舶の位置情報共有に関する研究」
- ・功労賞: 富田 昌宏氏
- ・特別賞: 海部 陽介氏(「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」事業に対して)
及び 野間 恒氏(長年の商船や客船・客船史研究に対して)

3. 継続事業3: 助成事業 (海事関係団体などへ支援と協力の強化)

(1)2019 年度助成については、以下の9件(7団体/個人)に対し助成(合計186万円)を行った。

- ①日本海洋少年団連盟：「褒状山縣賞」授与事業 (20万円)
 - ②日本海洋少年団連盟：「我ら海の子展」事業 (10万円)
 - ③日本海洋少年団連盟：カヌー等海上資機材整備事業 (30万円)
 - ④東京海洋大学 海事普及会：海事普及のための学校等巡回活動事業 (20万円)
 - ⑤東京海洋大学附属図書館：第11回企画展示「海が育んだ江戸」(第3回) (30万円)
 - ⑥NPO 法人故郷の海を愛する会：海から始まる物語 IN 2019 (10万円)
 - ⑦若土正史(神戸大学大学院非常勤講師)：ミデルブルグ事件のClaimsの継続研究 (26万円)
 - ⑧瀬田 広明(鳥羽商船高等専門学校商船学科准教授)：イスタンブール海峡南口における海上交通の安全性評価に関する研究 (20万円)
 - ⑨野村憲一(国立病院機構さいがた医療センター勤務(医師・血液内科))：大正時代、トルコ人捕虜を輸送した商船平明丸の調査・研究 (20万円)
- (この他、千葉元(大島商船高専商船学科教授)：船舶関連の海洋汚染防止の法体制と現場の実情に関する調査にも15万円助成を行ったが、2019年度中の研究活動が中止となり、全額返金された。)

(2)日本海洋少年団連盟主催の第47回「我ら海の子展」の授賞式(2019年8月19日)には郷古理事長、松尾理事が出席し、郷古理事長より「山縣記念財団理事長賞」を贈呈した。

なお、2019年度「褒状山縣賞」の授賞式は、当初2020年3月に予定されたが、新型コロナウイルス感染防止の観点から、延期された。

III 登記事項

- (1) 2019. 6. 19 片岡建治：監事退任、 堀江孝：監事就任、
郷古達也：理事重任、代表理事重任、
松尾泰彦、久下浩一、高田富夫：理事重任
以上につき 2019. 6. 25 登記

IV 会議などの実施状況

以下に記載した合計21件の会議・式典を行った。

1. 理事会・評議員会

No	開催日	場所/会議名	内容
(1)	2019. 4. 25	eメールにて 臨時理事会	山縣勝見賞選考委員会(2019.4.18開催)の答申を承認、2019年山縣勝見賞受賞者を決定。
(2)	2019. 5. 28	財団事務所 定時理事会	① 2018年度事業報告・決算・公益目的支出計画実施報告を承認。 ② 査読要領改定の件(査読の評価基準に「その他」を追加等)承認。 ③ 日本航海学会及び日本物流学会入会を承認。 ④ 80周年記念事業について承認。 ⑤ 評議員会(2019.6.19)開催日時・場所・議題について承認。 ⑥ 基本財産等の運用状況について報告。

			<p>⑦ 代表理事の職務執行状況報告。</p> <p>⑧ 今後の理事会と評議員会の開催日時設定について報告。</p>
(3)	2019. 6. 19	財団事務所 定時評議員会	<p>① 2018 年度事業報告・決算・公益目的支出計画実施報告を承認。</p> <p>② 片岡建治監事退任、堀江孝を新監事に選任、郷古達也、松尾泰彦、久下浩一、高田富夫を理事に再任（以上同日付）。</p> <p>③ 基本財産等の運用状況について報告。</p> <p>④ 2019 年山縣勝見賞受賞者について報告。</p> <p>⑤ 査読要領改定の件につき報告。</p> <p>⑥ 日本航海学会及び日本物流学会入会について報告。</p> <p>⑦ 80 周年記念事業について報告。</p> <p>⑧ 代表理事の職務執行状況報告。</p> <p>⑨ 今後の理事会と評議員会の開催日時設定について報告。</p>
(4)	2019. 6. 19	財団事務所 臨時理事会	代表理事（理事長）に郷古達也を選定。
(5)	2019. 9. 6	e メールにて 臨時理事会	<p>山縣勝見賞表彰規程の改定（下記 2 件）について承認。</p> <p>① 募集期間（第 3 条第 2 項）：「1 月から 3 月までの 3 か月間」を「3 月と 4 月の 2 か月間」に改定</p> <p>② 著作賞賞金額（第 17 条）：「30 万円」を「20 万円」に改定</p>
(6)	2019. 11. 12	e メールにて 臨時理事会	評議員会(2019. 11. 20)開催日時・場所・議題について承認。
(7)	2019. 11. 19	財団事務所 臨時理事会	<p>① 80 周年記念出版『日本の海のレジェンドたち』に掲載するレジェンドを 2 名（荘田平五郎、松方幸次郎）追加することを承認。</p> <p>② 「80 周年記念出版編集委員会」の設置及び下記 6 氏の委員選任を承認。苦瀬博仁、伊藤義和、逸見真、中出哲、郷古達也、木原知己</p> <p>③ 事業活動及び収支状況の中間報告並びに公益目的支出計画の進捗状況について報告。</p> <p>④ 代表理事の職務執行状況報告。</p> <p>⑤ 年報第 68 集掲載論文について報告。</p> <p>⑥ 年報第 69 集統一テーマを「海事産業の未来への展望と課題」とすることを報告。</p>
(8)	2019. 11. 20	財団事務所 臨時評議員会	<p>① 事業活動及び収支状況の中間報告並びに公益目的支出計画の進捗状況について報告。</p> <p>② 代表理事の職務執行状況報告。</p> <p>③ 山縣勝見賞表彰規程の改定（募集期間、著作賞賞金額）について報告。</p> <p>④ 年報第 68 集掲載論文について報告。</p> <p>⑤ 年報第 69 集統一テーマを「海事産業の未来への展望と課題」とすることを報告。</p> <p>⑥ 80 周年記念出版『日本の海のレジェンドたち』に掲載するレジェ</p>

			ンドを2名（荘田平五郎、松方幸次郎）追加することを報告。 ⑦ 「80周年記念出版編集委員会」の設置及び下記6氏の委員選任を報告。苦瀬博仁、伊藤義和、逸見真、中出哲、郷古達也、木原知己
(9)	2020. 3. 18	新型コロナウイルス感染防止のため eメールにて 定時理事会	① 2020年度事業計画・収支予算・公益目的支出計画を承認。 ② 「委員会の委員に対する報酬等並びに費用に関する規程」制定について承認。 ③ 助成審査委員会答申案を承認。 ④ 「報告の省略」による評議員会を、2019年3月27日までを回答期限に設定して実施することを承認。 ⑤ 2019年度の資産運用状況について報告。 ⑥ 年報掲載作品編集委員会の審議の途中経過について報告。
(10)	2020. 3. 26	新型コロナウイルス感染防止のため eメールにて 臨時評議員会	① 2020年度事業計画・収支予算・公益目的支出計画を報告。 ② 2019年度の資産運用状況について報告。 ③ 「委員会の委員に対する報酬等並びに費用に関する規程」制定について報告。 ④ 助成審査委員会答申案について報告。 ⑤ 年報掲載作品編集委員会の審議の途中経過について報告。

2. 年報掲載作品編集委員会

No	開催日	場所	内容
(1)	2019. 7. 26	財団事務所	提出論文等13件の一次審査を行い、論文12件につき査読後掲載可否を判断することとし、査読対象外の招待論文1件は修正後掲載可とした。
(2)	2019. 9. 20	財団事務所	① 論文12件の査読結果を受け、11件を「条件付き掲載」とし、1件を「不掲載」とした。「条件付き掲載」の11件については、執筆者宛指摘事項を伝え、10月17日までに修正を依頼することとした。 ② 査読対象外の招待論文1件については、査読報告書と同じ評価項目について委員会内で評価を行い、指摘事項をまとめ、伝えることにした。
(3)	2019. 11. 6	財団事務所	① 査読対象論文で「条件付き掲載」となった10件(注)の修正結果を見た結果、内4件を「研究論文」として、5件を「研究ノート」として掲載可とし、1件を「不掲載」とした。また、査読対象外の招待論文1件を「招待論文」として掲載することとした。 注：前回委員会で「条件付き掲載」とした11件の内1件は、その後、執筆者の所属学会誌掲載論文の再掲であることが判明したため、「不掲載」とした。 ② 原稿料金額について承認。 ③ 年報第69集(2020年)を「当財団設立80周年記念号」とし、「海事産業の未来への展望と課題」を統一テーマとすることとした。

3. 山縣勝見賞選考委員会・贈呈式

No	開催日	場所	内容
(1)	2019. 4. 18	財団事務所	① 2019 年山縣勝見賞の論文賞・功労賞・特別賞の受賞候補を選定し、理事会に答申することとした。著作賞は該当なしとした。 ② 山縣勝見賞の重複受賞について、2018 年選考委員会で合意された内容を再確認した。 ③ 当財団理事・評議員への授賞は差し控えることで合意。 ④ 今後の特別賞のイメージについて確認し、発掘について協力を依頼。
(2)	2019. 7. 19	海運クラブ 306 号室	2019 年山縣勝見賞贈呈式及び昼食会開催。受賞者 4 名と同伴者 1 名及び財団関係者（役員・選考委員長）4 名、計 9 名出席。

4. 助成審査委員会

No	開催日	場所	内容
(1)	2020. 3. 11	財団事務所	9 団体/個人による 11 事業、320 万円の申請に対し、全 11 事業へ 194 万円の助成を行うことを内定し、理事会に答申することとした。

5. 80 周年記念出版編集委員会

No	開催日	場所	内容
(1)	2019. 11. 29	財団事務所	① 事業の現在までの進展について報告。 ② 編集方針（本のタイトル、レイアウト、各評伝の容量、参考文献の記載、巻頭・巻末の補足記事、本書構成）について審議。 ③ 各評伝の内容のチェック・ポイント、本全体としての統一性について審議。 ④ 発送先について審議。 ⑤ その他、編集に当たっての委員からの提案・意見につき審議。
(2)	2019. 12. 13	e メールにて 委員会	① 各原稿の内容チェックについては、主に、苦瀬、木原、郷古の 3 委員、及び事務局（松尾、久下）で行い、他の委員（伊藤、逸見、中出）にも、原稿を送付のうえ、必要に応じてアドバイスを頂くこととした。 ② 執筆者への内容修正依頼は、明らかな内容の誤りがある場合や他の原稿との整合性を必要とする場合などのみに限ることとし、内容の詳細などには極力立ち入らないこととした。
(3)	2020. 2. 21	財団事務所	① 各評伝の表記方法で共通する「全体統一基準」について審議。 ② 各評伝ごとの疑問点・要修正点について審議。
(4)	2020. 3. 2	財団事務所	上記 2 月 21 日委員会の続き。「全体統一基準」、各評伝ごとの疑問点・要修正点につき、執筆者に伝えることとした。
(5)	2020. 3. 18	財団事務所	精読委員（苦瀬・木原・郷古）のみによる委員会。 上記「全体統一基準」、各評伝ごとの疑問点・要修正点を執筆者に伝える際のメールの表現について審議。

以上